

会長メッセージ



当社グループが培ってきた力により さらなる企業価値の向上に 取り組んでまいります。

信越化学グループの製品をご愛顧いただいているお客さま、株主、お取引先、地域社会の皆さまからのご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

2019年度は世界経済が減速する厳しい環境でしたが、当社グループでは引き続き経営努力を重ねることで最高益を更新することができました。

当社の塩ビ事業を担うシンテックでは、2020年2月にエチレン工場が完成し、稼働を始めました。これによりシンテックは原料からの一貫生産をさらに強固にすることができました。今後も世界最大の塩ビ供給事業者として、お客さまの元に製品をより安定的に供給する基盤を拡充してまいります。

同社は、1974年10月にテキサス州フリーポートで操業を開始し、世界の塩ビ需要を着実に捉えて、同地での大型増設を繰り返しながら成長してまいりました。1997年にフリーポートでの一連の増設が完了したことで、新たな生産拠点が必要との決断に至りました。これは、生産拠点を分散することで、自然災害等のやむを得ない事由が発生した場合もお客さまへの供給責任を着実に果たしていくための決断でした。

第一段階として、2000年12月にルイジアナ州のアディスで塩ビの生産を開始しました。その後、シンテックでは一層の成長を目指して原料からの一貫生産計画に取り組みました。塩ビの原料からの一貫生産を行うためには広大な土地が必要です。米国内の複数の候補地を調査した結果、ルイジアナ州の

ブラックミンに、鉄道と船舶の両面で輸送に最適な工業用地を見だし、同地で2008年7月から、塩ビの主原料の一つであります塩素からの一貫生産を始めました。その後、ブラックミンでは2度の大増設を実施し、現在のシンテックの生産能力は295万トンに達しました。

そして今年2月、もう一つの塩ビの主原料でありますエチレン工場が生産を開始したことで、シンテックの原料からの一貫生産計画が完了しました。もちろんシンテックの歩みは、これで終わりではありません。現在、さらなる発展に向けて今年末の完成を目指して大増設を進めています。

現在、世界経済は新型コロナウイルス感染症の拡大により、深刻な影響を受けています。これは2008年の世界的な金融危機を超える危機とも言われています。当社の歴史を振り返りますと、過去に何度となく訪れた危機に際しても、経営力により克服し、さらなる成長に結び付けてきました。それを可能にしているのが、私たちが培ってきました次に述べます当社の強みです。

- 一つの製品、特定の顧客に過度に依存することなく、主力事業である塩ビ、半導体、シリコンをはじめ、各事業を強くすることに注力しています。
- 強固な財務基盤を築くことで、自己資金による機動的な設備投資や研究開発投資を行っています。
- 絶え間のない技術革新と生産性の向上により、不況に強い企業体質を築いています。
- 経営者と従業員が一体となり、持続的な成長に取り組んでいます。

今後も引き続き企業価値の向上に取り組んでまいります。皆さまにはなお一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長

金川千尋